

令和2年度に使用する広島市立中学校用教科用図書
（「特別の教科 道徳」を除く）の採択について（答申）

教科〔数学〕 種目〔数学〕

令和2年度に使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [数 学] 種目 [数 学]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市街地の商業・工業地域、近郊の住宅地、農業地域など、学校を取り巻く状況は様々であり、生徒の学習環境も多様な地域である。
- 平成30年度の全国学力・学習状況調査によると、本市の生徒の学力の実態として、数量や図形に関する基礎的・基本的な知識・技能は定着しているが、図表やグラフなどを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えを数学的に表現したりする力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 単元の目標を達成させるための工夫 ② 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	③ 学習意欲を高めるための工夫 ④ 問題解決的な学習を実施するための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
＜内容の表現・表記＞	⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ⑧ 文字の大きさや配色等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑨ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

3 各教科書の特徴

1 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標を達成させるための工夫

- 多く見られる誤答を「まちがい例」として示し、その誤りを指摘したり、正しく直したりする活動を5例掲載するとともに、巻末の「まちがいなおし」で正答例を示している。
- 「例」の後に「たしかめ」を設け、基本的内容の定着を確認した上で、問題演習に取り組めるようにしている。
- より学習を深めることができるよう、側注に補充問題を示し、「もっと練習」の記号を付している。

視点② 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 側注の「ちょっと確認」で、定着が不十分な既習内容を示している。
- 巻末に「算数のふりかえり」として、8ページにわたり、小学校の既習内容をまとめて示すとともに、練習問題を掲載している。
- 各章末に、学習の定着を図る問題と応用問題を掲載している。
- 各節末の「基本の問題」に、評価問題を掲載するとともに、関連問題のページを側注に示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 比例と反比例で、日常生活や社会と関連する題材を15例扱っている。
- 「数学のまど」、巻末の「巻末課題編」で、日常生活や他教科等と関連した内容、数学史などを25例扱い、数学を学ぶ意義や有用性を示している。
- 各節の冒頭で、身のまわりにある事象を示して、疑問を抱かせるようにしている。

視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 各章の「～の利用」の節で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を掲載している。
- 各学年の特設ページ「学び合い」で、その章で学んだことを基に考え説明し合う学習活動を掲載し、側注に、「自分で考えてみよう」「友だちの考えを知ろう」「話し合ってみよう」「ふり返ってみよう」「深めてみよう」の順に、学習過程を示している。
- 各学年の巻末に、日常生活に見られる事象を題材とした活用問題を6例扱っている。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年では、「平面図形」で扱ったおうぎ形の弧の長さや面積を再度、「空間図形」の円錐の展開図や側面図の学習でも取り上げている。
- 第1学年の「活用の問題」で、厳島神社を取り上げている。
- 第1学年 サイズ B5判 重さ 500g
- 第2学年 サイズ B5判 重さ 400g
- 第3学年 サイズ B5判 重さ 475g

視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な課題を設けるとともに、数学用語の説明をしている。
第1学年2例、第2学年4例、第3学年16例 計22例

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- イラストやキャラクターの吹き出し、囲み、図解で、学習内容の注意事項や考えるヒントを示している。
- パラパラまんがで、立方体の展開図などを示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した配色にしている。
- ルビや側注などの小さい文字には、ユニバーサルデザインフォントを使用している。
- 問題文等が複数行の場合、言葉のまとまりが切れないように改行している。
- 章ごとにインデックスを色分けしている。

5 言語活動の充実

視点⑨ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 「Q説明してみよう」のコーナーで、根拠を明らかにして筋道立てて説明する学習活動を掲載している。
- 巻頭の「学習の進め方」で、ノートの書き方のポイントを示すとともに、「数学マイノート」のコーナーを設け、ノートの書き方例とポイントを示している。
- 「数学発見レポート」「レポートにまとめよう」で、レポートの書き方を示すとともに、書く順序やポイントを側注で示している。
- 側注の「マイノートプラス」で、式や図などの数学的な表現を書くときの注意や工夫を示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標を達成させるための工夫

- 多く見られる誤答を「どこがちがう？」として示し、その誤りを指摘したり、正しく直したりする活動を2例掲載している。
- より学習を深めることができるよう、側注に補充問題を示し、「プラス・ワン」の記号を付している。

視点② 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 側注の「思い出そう」で、定着が不十分な既習内容を示している。
- 巻末に「小学校の復習」として、3ページにわたり、小学校の練習問題を掲載している。
- 各章末に、学習の定着を図る問題と応用問題を掲載している。
- 各節末の「練習」に、評価問題を掲載するとともに、関連問題のページを示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 比例と反比例で、日常生活や社会と関連する題材を9例扱っている。
- 各領域のコラム「社会にリンク」、巻末の「Mathful」で、日常生活や他教科等と関連した内容、数学史などを24例扱い、数学を学ぶ意義や有用性を示している。

視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 各章の「～の利用」の節で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年では、「空間図形」で、おうぎ形の弧の長さや面積を扱っている。
- 1単位時間の学習内容を、見開き2ページで構成している。
- 第1学年 サイズ B5判 重さ 540g
- 第2学年 サイズ B5判 重さ 420g
- 第3学年 サイズ B5判 重さ 500g

視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な課題を設けるとともに、数学用語の説明をしている。
第1学年8例、第2学年3例、第3学年9例 計20例

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- イラストやキャラクターの吹き出し、囲み、図解で、学習内容の注意事項や考えるヒントを示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した配色にしている。
- ルビには、ユニバーサルデザインフォントを使用している。
- 問題文等が複数行の場合、言葉のまとまりが切れないように改行している。

5 言語活動の充実

視点⑨ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 「伝えよう」のコーナーで、根拠を明らかにして筋道立てて説明する学習活動を掲載している。
- 巻頭の「ノートづくり方例」で、ノートの書き方のポイントを示している。
- 「研究をしよう」「レポートを書こう」で、レポートの書き方を示すとともに、ポイントを側注で示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標を達成させるための工夫

- 多く見られる誤答を「正しいかな?」として示し、その誤りを指摘したり、正しく直したりする活動を2例掲載している。

視点② 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 領域のはじめと、側注の「ふりかえり」で、定着が不十分な既習内容を示している。
- 巻末に「小学校の計算」として、小学校の練習問題を1ページ掲載している。
- 各章末に、学習の定着を図る問題と応用問題を掲載している。
- 各節末の「確かめよう」に、評価問題を掲載するとともに、関連問題のページを側注に示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 比例と反比例で、日常生活や社会と関連する題材を17例扱っている。
- 「クローズアップ」、巻末の「課題学習・自由研究」で、日常生活や他教科等と関連した内容、数学史などを31例扱い、数学を学ぶ意義や有用性を示している。
- 各章の冒頭で、身のまわりにある事象を示して、疑問を抱かせるようにしている。

視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 各章の「～の利用」の節で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を掲載している。
- 各学年の特設ページ「数学的活動」で、その章で学んだことを基に考え説明し合う学習活動を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年では、「空間図形」で、おうぎ形の弧の長さや面積を扱っている。
- 第1学年の「文字式」で宮島水族館、因島大橋、「課題学習・自由研究」で、しまなみ海道を取り上げている。
- 第1学年 サイズ B5判 重さ 600g
- 第2学年 サイズ B5判 重さ 500g
- 第3学年 サイズ B5判 重さ 600g

視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な課題を設けるとともに、数学用語の説明をしている。
第1学年7例、第2学年6例、第3学年13例 計26例

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- イラストやキャラクターの吹き出し、囲み、図解で、学習内容の注意事項や考えるヒントを示している。
- パラパラまんがで、立体の投影図などを示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した配色にしている。
- 章ごとにインデックスを色分けしている。

5 言語活動の充実

視点⑨ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 「伝える」のコーナーで、根拠を明らかにして筋道立てて説明する学習活動を掲載している。
- 巻頭の「ノートの使い方」で、ノートの書き方のポイントを示している。
- 「レポートの作成」「レポート例」で、レポートの書き方を示すとともに、ポイントを側注で示している。
- 本文中の「例」の模範解答で、式や図などの数学的な表現を書くときの注意や工夫を示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標を達成させるための工夫

- 多く見られる誤答を「まちがい」として示し、その誤りを指摘したり、正しく直したりする活動を4例掲載している。
- 「例題」の後に「たしかめ」を設け、基本的内容の定着を確認した上で、問題演習に取り組めるようにしている。

視点② 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 章のはじめの「学習する前に」と側注の「もどって確認」で、定着が不十分な既習内容を示している。
- 後見返しに「小学算数のまとめ」として、9ページにわたり、小学校の既習内容をまとめて掲載している。
- 各章末に、学習の振り返りができる「学習のまとめ」を示すとともに、学習の定着を図る問題を掲載している。
- 各節末の「基本のたしかめ」に、評価問題を掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 比例と反比例で、日常生活や社会と関連する題材を13例扱っている。
- 「数学ミニ辞典」で、数学史などを8例扱い、数学を学ぶ意義や有用性を示している。
- 各章の冒頭で、身のまわりにある事象を示して、疑問を抱かせるようにしている。

視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 各章の「～の活用」の節で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を掲載している。
- 各学年の特設ページ「みんなで数学」で、その章で学んだことを基に考え説明し合う学習活動を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年では、「平面図形」で扱ったおうぎ形の弧の長さや面積を再度、「空間図形」の円錐の展開図や側面図の学習でも取り上げている。
- 第1学年 サイズ B5判 重さ 560g
- 第2学年 サイズ B5判 重さ 450g
- 第3学年 サイズ B5判 重さ 500g

視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な課題を設けるとともに、数学用語の説明をしている。
第1学年3例、第2学年4例、第3学年12例 計19例

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- イラストやキャラクターの吹き出し、囲み、図解で、学習内容の注意事項や考えるヒントを示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した配色にしている。
- ルビや「Q」の文章には、ユニバーサルデザインフォントを使用している。

5 言語活動の充実

視点⑨ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 「伝えよう」「話し合おう」のコーナーで、根拠を明らかにして筋道立てて説明する学習活動を掲載している。
- 巻頭の「ノートの工夫」で、ノートの書き方のポイントを示している。
- 第1学年の「資料の活用」で、レポートやポスターなどにまとめる方法を説明している。

1 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標を達成させるための工夫

- 多く見られる誤答を「誤答例」として示し、その誤りを指摘したり、正しく直したりする活動を2例掲載している。

視点② 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 本文中と側注の「ふりかえり」で、定着が不十分な既習内容を示している。
- 別冊「MathNavi ブック」に「学びをつなげよう」として、各章2ページにわたり（1章は4ページ）、小学校の問題の解き方を掲載している。
- 各章末に、学習の定着を図る問題と応用問題を掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 比例と反比例で、日常生活や社会と関連する題材を12例扱っている。
- 「数学展望台」、巻末の「数学広場」、別冊「MathNavi ブック」のコラム「数学を活用している人たち」、「学びをいかそう」で、日常生活や他教科等と関連した内容、数学史を27例扱い、数学を学ぶ意義や有用性を示している。
- 各節の冒頭で、身のまわりにある事象を示して、疑問を抱かせるようにしている。

視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 各章の「～の利用」の節で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年では、「平面図形」で扱ったおうぎ形の弧の長さや面積を再度、「空間図形」の円錐の側面図の学習でも取り上げている。
- 別冊「MathNavi ブック」を付し、補充的な学習と探求的な学習課題を掲載している。
- 第1学年 サイズ B5判 重さ 550g
第2学年 サイズ B5判 重さ 440g
第3学年 サイズ B5判 重さ 570g

視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な課題を設けるとともに、数学用語の説明をしている。
第1学年3例、第2学年6例、第3学年9例 計18例

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- イラストやキャラクターの吹き出し、囲み、図解で、学習内容の注意事項や考えるヒントを示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した配色にしている。
- 問題文等が複数行の場合、言葉のまとまりが切れないように改行している。

5 言語活動の充実

視点⑨ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 「自分のことばで伝えよう」「みんなで話しあってみよう」「自分の考えをまとめよう」のコーナーで、根拠を明らかにして筋道立てて説明する学習活動を掲載している。
- 巻頭の「ノートをくふうして、学習に役立てよう」で、ノートの書き方のポイントを示している。
- 第1学年の「資料の活用」、別冊「MathNavi ブック」で、レポートの書き方を示すとともに、書く順序やポイントを側注で示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標を達成させるための工夫

- 「例」の側注に「例の反復」を設け、基本的内容の定着を確認した上で、問題演習に取り組めるようにしている。

視点② 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 側注の「ふりかえり」で、定着が不十分な既習内容を示している。
- 巻頭に「出発前のクイックチャージ」として、8ページにわたり、小学校の既習内容をまとめて示すとともに、練習問題を掲載している。
- 各章末に、学習の定着を図る問題と応用問題を掲載している。
- 各節末の「確かめよう」に、評価問題を掲載するとともに、関連問題のページを側注に示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 比例と反比例で、日常生活や社会と関連する題材を10例扱っている。
- 巻末の「数学探検」で、日常生活や他教科等と関連した内容、数学史を11例扱い、数学を学ぶ意義や有用性を示している。
- 各章の冒頭で、身のまわりにある事象を示して、疑問を抱かせるようにしている。

視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 各章の「～の利用」の小節で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年では、「平面図形」で扱ったおうぎ形の弧の長さや面積を再度、「空間図形」の円錐の展開図や側面図の学習でも取り上げている。
- 第1学年 サイズ B5判 重さ 490g
- 第2学年 サイズ B5判 重さ 375g
- 第3学年 サイズ B5判 重さ 500g

視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な課題を設けるとともに、数学用語の説明をしている。
第1学年5例、第2学年3例、第3学年8例 計16例

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- イラストやキャラクターの吹き出し、囲み、図解で学習内容の注意事項や考えるヒントを示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した配色にしている。
- ユニバーサルデザインフォントを使用している。

5 言語活動の充実

視点⑨ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 「伝え合おう」のコーナーで、根拠を明らかにして筋道立てて説明する学習活動を掲載している。
- 巻頭の「ノートづくり方」で、ノートの書き方のポイントを示している。
- 側注の「NOTE」で、式や図などの数学的な表現を書くときの注意や工夫を示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標を達成させるための工夫

- 多く見られる誤答を「まちがいの例」として示し、その誤りを指摘したり、正しく直したりする活動を3例掲載している。
- より学習を深めることができるよう、側注に補充問題を示し、「チャレンジ」の記号を付している。

視点② 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 章のはじめの「学ぶ前に」と側注の「ふりかえり」で、定着が不十分な既習内容を示している。
- 巻末に「算数をふりかえろう」として、8ページにわたり、小学校の問題の解き方を示すとともに、練習問題を掲載している。
- 各章末に、学習の定着を図る問題と応用問題を掲載している。
- 各節末の「基本の問題」に、評価問題を掲載するとともに、関連問題のページを側注に示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 比例と反比例で、日常生活や社会と関連する題材を15例扱っている。
- 「数学のたんけん」、巻末の「数学研究室」で、日常生活や他教科等と関連した内容、数学史を24例扱い、数学を学ぶ意義や有用性を示している。
- 各章の冒頭で、身のまわりにある事象を示して、疑問を抱かせるようにしている。

視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 各章の「～の活用」の節で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年では、「空間図形」で、おうぎ形の弧の長さや面積を扱っている。
- 第1学年の「文字式の活用」で、広島市植物公園を、「とりくんでみよう」で、広島県福山市を取り上げている。
- 第1学年 サイズ B5判 重さ 540g
- 第2学年 サイズ B5判 重さ 400g
- 第3学年 サイズ B5判 重さ 490g

視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な課題を設けるとともに、数学用語の説明をしている。第1学年5例、第2学年2例、第3学年6例 計13例

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- イラストやキャラクターの吹き出し、囲み、図解で、学習内容の注意事項や考えるヒントを示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した配色にしている。
- ルビには、ゴシック体を使用している。
- 問題文等が複数行の場合、言葉のまとまりが切れないように改行している。
- 章ごとにインデックスを色分けしている。

5 言語活動の充実

視点⑨ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 「説明しよう」「話し合おう」「説明できるかな？」のコーナーで、根拠を明らかにして筋道立てて説明する学習活動を掲載している。
- 巻頭の「ノート工夫」で、ノートの書き方のポイントを示している。
- 「数学レポートをかこう」「数学レポートの例」で、レポートの書き方を示している。

4 意見

意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書は、多く見られる誤答を「まちがい例」として示し、その誤りを指摘したり、正しく直したりする活動を掲載するとともに、巻末の「まちがいなおし」で正答例を示すなど、基礎・基本の定着のための工夫がある。

さらに、東京書籍の教科書の特徴である、各学年の特設ページで、その章で学んだことを基に考え説明し合う学習活動を掲載していることに加え、側注に、学習過程を示していること、各学年の巻末に日常生活に見られる事象を題材とした活用問題を扱っていること、「数学発見レポート」「レポートにまとめよう」で、レポートの書き方や書く順序を示していること、側注の「マイノートプラス」で、式や図などの数学的な表現を書くときの注意や工夫を示していることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、図表やグラフなどを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えを数学的に表現したりする力に課題がある本市生徒の状況に、より対応することができるものである。

本教科書について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した調査・研究報告書を基に審議した結果、特設ページ「学び合い」を表裏2ページで設け、表のページで、個人で考えるための視点を示し、裏のページでは、具体的に表や式などを使って、自分の考えを数学的に表現できるよう工夫していることや、この2ページにわたり、「自分で考えてみよう」「友だちの考えを知ろう」「話し合ってみよう」「振り返ってみよう」「深めてみよう」などの学習過程を掲載し、個人で考えたことを基に説明したり、他者の考えを聞いたりする過程を経て、自分の考えを深められるよう工夫している特徴もあり、本市で使用する教科書としてよりふさわしいと考えられる。

なお、本教科書は、平成27年度に採択し、平成28年度から平成31年度まで全市立中学校において使用しているが、特段の問題はない。

意見2 学校図書の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

学校図書の教科書は、多く見られる誤答を「正しいかな?」として示し、その誤りを指摘したり、正しく直したりする活動を掲載しているなど、基礎・基本の定着のための工夫がある。

さらに、学校図書の教科書の特徴である、各学年の特設ページで、その章で学んだことを基に考え説明し合う学習活動を掲載していること、「レポートの作成」「レポート例」で、レポートの書き方を示すとともに、ポイントを側注で示していること、本文中の「例」の模範解答で、式や図などの数学的な表現を書くときの注意や工夫を示していることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、図表やグラフなどを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えを数学的に表現したりする力に課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。

令和2年度に使用する広島市立中学校用教科用図書
（「特別の教科 道徳」を除く）の採択について（答申）

教科〔理科〕 種目〔理科〕

令和2年度に使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [理 科] 種目 [理 科]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、中心部に商工業地域が多く、マンションや大規模な商業店舗も増えてきているが、周辺部は、山や川など自然に恵まれ、比較的的自然から直接学ぶことができる地域である。また、こども文化科学館、安佐動物公園、植物公園、江波山気象館等の施設があり、様々な分野の事象を観察・調査することができる施設が整っている地域である。
- 生徒は、平成29年度の「基礎・基本」定着状況調査によると、本市の生徒の学力の実態として、観察・実験に対する興味・関心は高いが、事象とその要因を関係付けて説明したり、観察・実験の結果を分析・解釈し事象が起こる要因を見いだしたりする力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫 ② 観察・実験の技能を習得させるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 学習意欲を高めるための工夫 ④ 問題解決的な学習を実施するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ⑧ 文字の大きさや配色等の工夫
<言語活動の充実>	⑨ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

3 各教科書の特徴

1 基礎・基本の定着

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 既習事項の確認と他教科との関連を図るため、各章の導入部や本文の側注に、「これまでに学んだこと」の欄を設けている。
- 学習内容を確認するため、各章末に「チェック」のコーナーを設けている。
- 学習内容や到達度を確認するため、各単元末に内容をまとめた「学習内容の整理」と評価問題として「確かめと応用」を設けている。また、「学習内容の整理」では、関連ページを示している。
- つまずきやすい学習内容には、「例題と考え方」「練習」「確認」の欄を設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 生徒による観察・実験を、第1学年27、第2学年25、第3学年22設けている。
- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付けるとともに、実験操作のコツや注意事項にマークを付して示している。注意事項は5種類のマークで示している。
- 第1学年の「基礎操作 グラフのかき方」で、2種類のグラフのかき方と失敗例を説明している。また、グラフの利点と誤差について記述している。
- 第1学年の「基礎操作 顕微鏡の使い方」で、観察の失敗例を写真で示し、その対処法を説明している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 各章の導入部に、身近な現象や不思議な現象の写真を示している。
- コラム「科学でGO!」に、「ふしぎ大陸」「防災大陸」「エコ大陸」「はたらき大陸」「歴史大陸」の4つのテーマを設定し、学習したことを日常生活や社会と関連付けている。
- 各単元末に、「ニッポンの科学」を設け、実生活と関連する内容や最新の科学技術を紹介している。

視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 目的意識や課題意識をもって観察・実験に取り組めるよう、観察・実験前後に「比べよう」「予想しよう」「推測しよう」「調べ方を考えよう」「考察しよう」の欄を設けている。
- 各単元末に、「学びを広げよう」を位置付け、自由研究の事例を紹介している。
- 「どこでも科学」のコーナーで、別の材料を使った観察・実験や別の方法の観察・実験を示している。
- 各学年の巻頭に「探究の流れの例とこの教科書の使い方」を設け、探究の過程を示している。
- 各単元に、「じっくり実験しよう」のコーナーを設定し、考察のポイントを具体的に示している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 観察・実験の季節的要因や生徒の発達段階を考慮して単元を配列している。
- 結果を予想させるため、観察・実験の手順と結果は別のページに配置されている。
- 指導順序の変更がスムーズに行えるように「リンクマーク」で分野間の関連を示している。
- 第1学年 サイズ 変形A4判 重さ 556g
- 第2学年 サイズ 変形A4判 重さ 584g
- 第3学年 サイズ 変形A4判 重さ 633g
- 第3学年の教科書 314 ページ

視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な学習内容として読み物や説明、観察、実験を紹介している。
- 各学年にある発展的な学習は、第1学年21、第2学年29、第3学年31である。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- 人型キャラクターや生徒のキャラクターを使って、考える視点を示している。
- 各学年の巻末に、「校外施設の活用」を掲載している。
- 第1学年の「葉のつくり」では、葉のつくりを写真とイラストを合成した図で示している。
- 各学年の巻末資料に、教具（世界の活火山分布・温帯低気圧3D・星座早見盤）を付している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。
- グラフの中に複数の線が入る場合、色と線種を変えている。
- 発達段階を考慮し、第1学年の文字サイズを大きくしている。

5 言語活動の充実**視点⑨ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫**

- 第1学年の「生命・地球」「物質・エネルギー」の始めに、「基本操作 レポートの書き方」を示している。
- 各学年の観察・実験後に、「私のレポート」を位置付け、分析・解釈したことを表現する方法を示している。
- 課題把握、予想、考察などの場面で話し合う活動を設定している。
- 単元末の「確かめと応用」で、学習したことを説明したり、学習したことを活用して説明したりする問題を設けている。
- 「学びを活かして考えよう」のコーナーで、学習したことを活用して説明する場面を設定している。
- 第1学年の巻頭に「話し合いのしかた」や「発表のしかた」を示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 既習事項の確認と他教科との関連を図るため、各単元の導入部に、「これまでに学習したこと」、本文の側注に「思い出そう」等の欄を設けている。
- 学習内容を確認するため、本文中に「問い」、各章末に「章末問題」のコーナーを設けている。
- 学習内容や到達度を確認するため、各単元末に内容をまとめた「まとめ」と評価問題として「単元末問題」「読解力問題」を設けている。
- つまづきやすい学習内容には、「例題」「解答例」の欄を設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 生徒による観察・実験を、第1学年34、第2学年29、第3学年22設けている。
- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付けるとともに、実験操作のコツや注意事項にマークを付して示している。
- 第1学年の「基本操作 グラフのかき方」で、2種類のグラフのかき方を説明している。また、誤差について記述している。
- 第1学年の「基本操作 顕微鏡の使い方」で、観察の失敗例を写真で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 各章の導入部に、身近な現象や不思議な現象を写真やイラストで示している。
- コラム「くらしの中の理科」「トピック」「科学史」「プロフェッショナル」を設け、学習したことを日常生活や社会と関連付けている。

視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 実験後に、「話し合ってみよう」というコーナーを設け、結果を分析して解釈する方法を示している。
- 各学年の巻末に、「課題研究・自由研究にチャレンジしよう」を位置付け、探究の過程と自由研究の事例を示している。
- 「もっと」のコーナーで、観察・実験の別の方法を示している。
- 第1学年の「身近な生物の観察」で、観察・記録の仕方を示している。
- 各単元に、終章「学んだことを活かそう」を位置付け、学習したことを活かして課題を解決する活動を設けている。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 観察・実験の季節的要因や理科室の使用を考慮して単元を配列している。
- 結果を予想させるため、観察・実験の手順と結果は別のページに配置されている。
- 指導順序の変更がスムーズに行えるように「弓矢のマーク」で分野間の関連を示している。
- 第1学年 サイズ A4判 重さ 535g
- 第2学年 サイズ A4判 重さ 576g
- 第3学年 サイズ A4判 重さ 614g
- 第3学年の教科書 333 ページ

視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な学習内容として読み物や説明、観察、実験を紹介している。
- 各学年にある発展的な学習は、第1学年25、第2学年41、第3学年41である。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- 2人の教師と生徒のキャラクターを使って、考える視点を示している。
- 各学年の巻末に、「Let's Go 科学館・博物館」を掲載している。
- 第1学年の「光の性質」で、厳島神社のウォータースクリーンの写真を使って、光が反射して目に届く現象を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。
- グラフの中に複数の線が入る場合、色と線種を変えている。
- 吹き出しの中の文章は、文節により改行している。

5 言語活動の充実

視点⑨ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 第1学年の各単元に「私のレポート」を示している。
- 各単元の終章「学んだことを活かそう」で、学習したことを活用して説明したり、話し合いをしたりする活動を設定している。
- 「章末問題」や「単元末問題」で、学習内容や学習内容を活用して説明したりする問題を設けている。

1 基礎・基本の定着

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 既習事項の確認と他教科との関連を図るため、各単元の導入部に、「これまでに学んできたことをチェックしよう」、各章の導入部に、「これまで学んできたこと」、本文の側注に「思い出してみよう」等の欄を設けている。
- 学習内容を確認するため、本文中に「問い」、各章末に「学習の確認」のコーナーを設けている。
- 学習内容や到達度を確認するため、各単元末に内容をまとめた「学習のまとめ」と評価問題として「単元末問題」「活用しよう」を設けている。また、第1・2学年の巻末に「各学年のまとめ」、第3学年の巻末に「総まとめ」を設けている。
- 「小数のかけ算・割り算の復習」を第1学年の巻末「資料」に掲載している。また、つまずきやすい学習内容には、「例題と解き方」「問い」の欄を設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 生徒による観察・実験を、第1学年24、第2学年24、第3学年20設けている。
- 観察・実験の説明では、手順のまとめりごとに見出しを付けるとともに、実験操作のコツや注意事項にマークを付し示している。
- 第1学年の「基本操作 グラフのかき方」で、2種類のグラフのかき方と各グラフの失敗例を説明している。また、グラフの利点と誤差について記述している。
- 第1学年の「基本操作 顕微鏡の使い方」で、観察の失敗例を写真で示し、その対処法を説明している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 各章の導入部に、身近な現象や不思議な現象を写真で示している。
- コラム「科学の窓」に、「日常とのつながり」「科学の歴史」「環境」「資料」の4つのテーマを設定し、学習したことを日常生活や社会と関連付けている。
- 各単元末に、「科学を仕事に活かす」を設け、実生活と関連する内容や最新の科学技術を紹介している。

視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 目的意識や課題意識をもって観察・実験に取り組めるよう、観察・実験前後に「話し合ってみよう」の欄を設けている。
- 各学年の巻末に、「自由研究」を位置付け、探究の過程と自由研究の事例を示している。
- 「Let's Try」「チャレンジ」のコーナーで、別の材料を使った観察・実験や別の方法の観察・実験を示している。
- 各学年の巻頭に「観察・実験の進め方」を設け、探究の過程を示している。
- 観察・実験のまとめでは、分析・解釈の仕方が分かるよう、「結果」と「考察とまとめ」を分けて示している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 地域の実情にあわせて単元の学習順序を組みかえられるよう、各学年とも前半に1分野を、後半に2分野の単元を配置している。
- 結果を予想させるため、観察・実験の手順と結果は別のページに配置されている。
- 第1学年 サイズ A4判 重さ 626g
- 第2学年 サイズ A4判 重さ 644g
- 第3学年 サイズ A4判 重さ 659g
- 第3学年の教科書 316 ページ

視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な学習内容として読み物や説明、観察、実験を紹介している。
- 各学年にある発展的な学習は、第1学年10、第2学年15、第3学年26である。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- フクロウや生徒のキャラクターを使って、考える視点を示している。
- 第1学年の巻末資料に、広島県倉橋島の花こう岩採掘場を取り上げている。
- 第1学年の「葉のつくり」では、葉のつくりを写真とイラストを合成した図で示している。
- 第2学年の巻末資料に、教具（原子カード）を付している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。
- グラフの中に複数の線が入る場合、色と線種を変えている。

5 言語活動の充実

視点⑨ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 第1学年の3つの単元に「基本操作 レポート・ノートのかき方」を示している。また、第2・3学年の巻末資料に、「観察・実験のレポート・ノートのかき方」を示している。
- 課題把握、予想、考察などの場面で話し合う活動を設定している。
- 「単元末問題」で、既習事項を活用したり、理由を説明させたりする問題を設けている。

1 基礎・基本の定着

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 既習事項の確認をするため、各単元の導入部に、小学校の学習内容を示し、本文の側注に「思い出そう」の欄を設けている。
- 学習内容を確認するため、本文中に「要点をチェック」のコーナーを設けている。
- 学習内容や到達度を確認するため、各単元末に内容をまとめた「要点と重要用語の整理」と評価問題として「基礎・基本問題」「活用・応用問題」を設けている。また、各学年の巻末に「学年末総合問題」、第3学年の巻末に「中学校総合問題」を設けている。
- 「理科で使う算数・数学」を各学年の「巻末資料」に掲載している。また、つまずきやすい学習内容には、「例題と解き方」の欄を設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 生徒による観察・実験を、第1学年27、第2学年29、第3学年25設けている。
- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付けるとともに、禁止事項・注意事項にマークを付けて示している。注意事項は4種類のマークで示している。
- 第1学年の「基礎技能 グラフの表し方」で、グラフのかき方を説明している。また、誤差について記述している。
- 第1学年の「基礎技能 顕微鏡の使い方」で、顕微鏡の使い方を説明している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 各章の導入部に、身近な現象や不思議な現象を写真で示している。
- コラム「ハローサイエンス」に、「生活」「環境」「歴史」「安全」の4つのテーマを設定し、学習したことを日常生活や社会と関連付けている。

視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 目的意識や課題意識をもって観察・実験に取り組めるよう、観察・実験前後に「考えよう」「話し合おう」「調べよう」の欄を設けている。
- 各学年の巻末に、「自由研究」を位置付け、探究の過程と自由研究の事例を示している。
- 第1学年の巻頭に、「理科学習の進め方」を設け、探究の過程を示している。
- 習得した知識や技能を活用できるよう「活用しよう」を設定している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 地域の実情にあわせて単元の学習順序を組みかえられるよう、各学年とも前半に1分野を、後半に2分野の単元を配置している。
- 結果を予想させるため、観察・実験の手順と結果は別のページに配置されている。
- 第1学年 サイズ A4判 重さ 549g
- 第2学年 サイズ A4判 重さ 541g
- 第3学年 サイズ A4判 重さ 590g
- 第3学年の教科書 314ページ

視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な学習内容として読み物や説明、観察、実験を紹介している。
- 各学年にある発展的な学習は、第1学年32、第2学年32、第3学年28である。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- ロボットや生徒のキャラクターを使って、考える視点を示している。
- 各学年の巻末に、「校外の施設を活用しよう」を掲載している。
- 第2学年の巻末資料に、広島市の健康づくりセンター健康科学館を取り上げている。
- 各学年の巻末資料に、教具（カメラ作成シート・原子モデルカード・星座早見作成シート）を付している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。
- グラフの中に複数の線が入る場合、色を変えている。

5 言語活動の充実

視点⑨ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 第1学年の巻頭に、「基礎技能 レポートの書き方」を示している。
- 各学年、「私のレポート」を位置付け、分析・解釈したことを表現する方法を示している。
- 課題把握、予想、考察などの場面で話し合う活動を設定している。
- 単元末の「活用・応用問題」で、学習したことを活用し、説明させる問題を設定している。
- 「活用しよう」のコーナーで、学習したことを活用して説明する活動を設定している。

1 基礎・基本の定着

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 既習事項の確認と他教科との関連を図るため、各章の導入部や本文中に「ふり返り」、本文の側注に「教科と関連」の欄を設けている。
- 各章ごとの、学習内容を確認するため、別冊「マイノート」に「基本のチェック」のコーナーを、2ページにわたって設けている。
- 学習内容や到達度を確認するため、各単元末に内容をまとめた「学習のまとめ」を設定している。また、各学年の別冊「マイノート」に評価問題として「力だめし」と「学年末総合問題」、第3学年の別冊「マイノート」に「中学校総合問題」を設けている。
- 「理科でよく使う算数・数学」を各学年巻末の「サイエンス資料」に掲載している。また、つまづきやすい密度や濃度の学習では、別冊「マイノート」に式の立て方や途中までの式を示している。
- 用語の確認のため、青色シートを添付している。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 生徒による観察・実験を、第1学年24、第2学年28、第3学年23設けている。
- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付けるとともに、実験操作のコツや注意事項にマークを付して示している。注意事項を8種類のマークで示している。
- 第1学年の「実験のスキル 誤差を考えたグラフのかき方」で、2種類のグラフのかき方と、各グラフの失敗例を説明している。また、グラフの利点と誤差について記述している。
- 第1学年の「基礎技能 顕微鏡の使い方」で、顕微鏡の使い方を説明している。
- 別冊「マイノート」に、スケッチや作図などをするコーナーを設けている。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 各章の導入部に身近な現象や不思議な現象の写真を示している。
- コラム「ぶれいくtime」に、「先人の知恵袋」「科学偉人伝」「部活ラボ」「はたらく人に聞いてみよう!」の4つのテーマを設定し、学習したことを日常生活や社会と関連付けている。
- 各単元末に、「ひろがる世界」を設け、実生活と関連する内容や最新の科学技術を紹介している。
- 日常生活に見られる身近な事象について、「どうして～なのだろうか」と問いかける形で学習課題を示している。

視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 目的意識や課題意識をもって観察・実験に取り組めるよう、観察・実験前後に「考えてみよう」「予想してみよう」「話し合ってみよう」の欄を設けている。
- 各学年の巻末に、「きみも科学者」を位置付け、「探究の道しるべ」を設け、探究の過程や自由研究の事例が示している。
- 「ためしてみよう」「別の方法にトライ」のコーナーで、別の材料を使った観察・実験や別の方法の観察・実験を示している。
- 第1学年の「自然の中に生命の営みを見つけよう」で、観察のポイントと観察の進め方を示している。
- 第1学年「物質」の学習では、最初に探究的な学習活動を設定し、その具体例を示している。
- 別冊「マイノート」に、考えたことや予想したことを記述できる欄を設けている。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 地域の実情にあわせて単元の学習順序を組みかえられるよう、各学年とも前半に2分野を、後半に1分野の単元を配置している。
- 結果を予想させるため、観察・実験の手順と結果は別のページに配置されている。
- 指導順序の変更がスムーズに行えるように「つながるページ」で分野間の関連を示している。
- 小・中・高の系統性をもたせるため、各学年とも4つの領域を「生命・地球編」「物質・エネルギー編」に分けて表現している。
- 第1学年 サイズ A4判 重さ 452g
別冊 重さ 148g
- 第2学年 サイズ A4判 重さ 462g
別冊 重さ 153g
- 第3学年 サイズ A4判 重さ 499g
別冊 重さ 153g
- 第3学年の教科書 294 ページ
別冊 86 ページ

視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な学習内容として読み物や説明、観察、実験を紹介している。
- 各学年にある発展的な学習は、第1学年15、第2学年22、第3学年31である。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- フラスコや双眼鏡、生徒のキャラクターを使って、考える視点を示している。
- 第1学年の巻末に、「地域の施設を活用しよう」を掲載している。
- 第1学年の「地球」で、広島市の三角州や耐震補強した校舎、第2学年の巻末資料で、安佐動物公園、広島レモン、第3学年の「環境」で、広島土砂災害、「広島湾周辺の自然からの恩恵と災害」、カキの養殖、広島菜を取り上げている。
- 第1学年の「花のつくり」「葉のつくり」では、花の断面や葉のつくりを写真とイラストを合成した図で示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。
- グラフの中に複数の線が入る場合、色と線種を変えている。
- 発達段階を考慮し、第1学年の文字サイズを大きくしている。
- 吹き出しの中の文章は、文節により改行している。

5 言語活動の充実

視点⑨ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 第1学年の「生命・地球編」「物質・エネルギー編」のはじめに、「わたしのレポート」、巻末に「レポートのまとめ方」を示している。
- 各学年、観察・実験後に、「私のレポート」を位置付け、分析・解釈したことを表現する方法を示している。
- 課題把握、予想、考察などの場面で、話し合う活動を設定している。
- 別冊「マイノート」の「力だめし」や各学年末の「学年末総合問題」で、学習したことを活用して説明する問題を設けている。
- 別冊「マイノート」に、話し合う内容について、自分の考えを書くことができるようにしている。
- 第1・2学年の巻末に「理科における話し合いと発表」を設け、観察・実験前後の話合い、発表の仕方を説明している。
- 観察・実験前後に分析・解釈したことを表現するため、別冊「マイノート」の「サイエンスアプローチ」を設けている。
- 第1学年の観察・実験の考察では、「結果○から」という表記を入れ、結果との対応を示している。

4 意見

意見1 新興出版社啓林館の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

新興出版社啓林館の教科書の特徴である、日常生活に見られる身近な事象について、「どうして～なのだろうか」と問いかける形で学習課題を示していること、第1学年の「物質」の学習では、探究的な学習活動を設定し、その具体例を示していること、別冊「マイノート」に、考えたことや予想したこと、分析・解釈したことを記述する欄を設けていること、第1・2学年の巻末に「理科における話し合いと発表」を設け、観察・実験前後の話し合い、発表の仕方を説明していること、第1学年の観察・実験の考察では、「結果〇から」という表記を入れ、結果との対応を示していることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、事象とその要因を関係付けて説明したり、観察・実験の結果を分析・解釈し事象が起こる要因を見いだしたりする力に課題がある本市生徒の状況により対応することができるものである。

本教科書について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した調査・研究報告書を基に審議した結果、唯一、別冊を取り入れ、この別冊「マイノート」の中で「サイエンスアプローチ」のコーナーを設け、観察や実験に関連した課題に取り組んで、文章や図、グラフ、表などを読み取る力、読み取った情報を分析・解釈する力、他の人に発信する力を身に付けさせるよう工夫しているという特徴もあり、本市で使用する教科書としてよりふさわしいと考えられる。

なお、本教科書は、平成27年度に採択し、平成28年度から平成31年度まで全市立中学校において使用しているが、特段の問題はない。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書の特徴である、各学年の巻頭に「探究の流れの例とこの教科書の使い方」を設け、探究の過程を示していること、各単元に、「じっくり実験しよう」のコーナーを設定し、考察のポイントを具体的に示していること、「学びを活かして考えよう」のコーナーで、学習したことを活用して説明する場面を設定していること、第1学年の巻頭に「話し合いのしかた」や「発表のしかた」を示していることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、事象とその要因を関係付けて説明したり、観察・実験の結果を分析・解釈し事象が起こる要因を見いだしたりする力に課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。